



今月は2月3日に市長を表敬訪問した、金子真珠さんを紹介いたします。金子さんは昨年12月にタイで開催されたジェットスキーの国際大会「WGP#1 Water Jet World Cup 2025」で女性のみが出場できる「Pro-Am Women Ski GP」の世界チャンピオンに輝きました。

13歳のころ、父親のジェットスキーの大会を応援するために訪れたタイで、自分と同世代の世界チャンピオンの活躍を見て、「この人たちいつか走ってみたい」とその舞台への憧れを抱いた金子さん。ジェットスキーの免許を取得できる16歳になると同時に免許を取り、プロライダーの人達と練習する日々が始まりました。しかし、ずっと続けてきたダンスの活動なども重なり、ジェットスキーから一度離れてしまいました。

20歳になり、進路に悩み自分を見つめ直す中で、再びジェットスキーへの思いが湧き上がってきました。そして利根川の赤岩付近などでマシンの練習をしながら、さきたま古墳公園でのランニングや筋力トレーニングなどの体力づくりにも励みました。しかし、思うように技術や体力が伸びず、そんなときにヨガと出会います。瞑想を通して自身の精神力、集中力を高めるヨガを始めたことで、伸び悩んでいた技術も向上して体力もつき、国際大会でも上位の成績を残すようになりました。今もこのヨガを毎日欠かさず行っているそうです。

24歳のとき、初めて日本で開催された「WGP1 JETSKI WORLD CUP SERIES」の「Pro-Am Women Ski GP」では「自国の開催なので、なんとしても1位」との思いで臨み、見事総合1位を獲得。「チーム、スポンサーと協力して獲れた1位でした」と語ってくれました。その後、世界チャンピオンとなった「WGP#1 Water Jet World Cup 2025」のレースでは「Jの大会の1位はずっと狙っていました」と笑顔の金子さん。

現在はジェットスキーの魅力を広めるため、ジェットスキー関連のイベントに参加したり、SNSを活用してその魅力を発信したりすることに力を入れています。また、今後はジュニア育成にも取り組んでいきたいとのこと。将来に悩む中で、ジェットスキーに光を見出した金子さんは「いつでもチャレンジはできます」と夢を追いかけられる人へエールを送ります。「一度は諦めても挑戦を続け、今後も海外でのさまざまな大会で活躍したい」と力強く語る金子さん。これからも挑戦は続いていきます。



夢を追い続けて世界の頂点へ

金子 真珠さん (埼玉・25歳)

来て! 見て! 図書館

開館時間
午前9時～午後7時

休館日
3月2日(月)・3日(火)・9日(月)・16日(月)・
23日(月)・30日(月)・31日(火)、
4月6日(月)・13日(月)

※休館日の図書館の返却はブックポストをご利用ください。

●図書館●

佐間3-24-7(「みらい」内)

TEL:556-4227

FAX:555-3770



16ミリフィルム春の映写会

- ▶日時 3月20日(金)午後1時30分(午後1時10分開場)
- ▶場所 「みらい」映像ホール
- ▶内容 「忍たま乱太郎」(45分)
忍術学園の忍たまたちが活躍する物語
- ▶定員 70人(先着順)
- ▶入場料 無料

人気のある本を新しくしました

図書館では多くの皆さんに親しまれ、数多く貸し出されることで傷んでしまった本の買い替えを定期的に行っています。今年度は児童書を中心に買い替えを行いました。

- ・せなけいこ・おばけえほんシリーズ せな けいこ/作
- ・館シリーズ 綾辻 行人/著
- ・坂の上の雲 司馬 遼太郎/著
- ・史記 北方 謙三/著
- ・もったいないばあさんシリーズ 真珠 まりこ/作・絵
- ・プリンセス・ダイアリー メグ・キャボット/著
- ・ねじまき鳥クロニクル 村上 春樹/著 他多数

図書館シネマ倶楽部

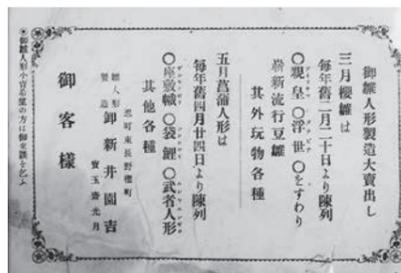
- ▶日時 3月22日(日)午後1時30分(午後1時10分開場)
- ▶場所 「みらい」映像ホール
- ▶作品名 「ジェーン・エア」(96分)
- ▶定員 70人(先着順)

行田歴史系 384

資料がかる行田の歴史

84

昔のひな祭りいろいろ



雛人形店の広告(郷土博物館蔵寄託小川忠次郎家文書)

3月3日のひな祭りは桃の節句、上巳の節句とも呼ばれる年中行事です。古くは人形に災いを移して難を逃れる厄よけの風習でしたが、やがてひな人形を飾るものへと変化し、18世紀中頃になると女子の成長を祝う行事として定着しました。天保8(1837)年に書かれた上級忍藩士の家の記録「当家歳中行司」に、ひな祭りのことが出てきます。この資料については令和7年11月号でも紹介しているので、そちらもぜひご覧ください。さて、「三月節句祝」の項を見ると、食事のメニューには赤飯の他、貝の身を入れたり、白酒を用意したりすることなどが書かれています。貝の身はハマグリをむいたもので、ひな祭りの食材として現在でもおなじみです。興味深いのはひし餅の記述で、「菱餅」は、段飾りとは別に飾る縁起物や昔話などをモチーフにした人形(浮世人形)を指していると考えられます。浮世人形をひな祭りに飾ったという証言や、実際に飾られた人形も市内で確認されています。郷土博物館では、3月31日まで大正時代のひな人形を展示しています。ちょっと珍しいタイプのひな飾りですので、ぜひご覧ください。

(郷土博物館 岡本夏実)

俳句壇田

ぎょうだ はいだん

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。※毎月末日必着
なお、「一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

五郎助やおかげさまにて認知症

【句評】認知症という人権に触れるような表現を使ってなんと人も人を食った一句である。しかし、選者の独断の鑑賞が許されるなら極めて奥の深い句といえるだろう。五郎助とは粟のごとく母食鳥の別称を持つ冬の季語である。母に苦労を掛けたこととして自ら認知症を被ったという身につまされる作である。くれぐれも親孝行をお忘れなく。

初鏡心の化粧忘れずに

【句評】初鏡とは年が明けて初めて鏡を見ることで新年の季語であり特に女性の例句が多い。掲句は表面的な見ればかりに気を使うのではなく、常に心も健全に保つことが大事だという戒めの一句いくら化粧をして着飾っても心が病んでいたりはねくれている。それは必ず表面に現れてしまうものであると読み解くことができる。人生訓の作といえる。

髪型を変へて心機の新鏡

【句評】前作と同じ初鏡の句であるが、前作は内面、掲句は表面的なものを詠んだ句でその対比が面白い。長い人生の中で気分転換が必要な場面は一度や二度ではない。そんな時、上手に対処法を見つけていくことができれば常に前向きに生きていける。髪型を変えて心機一新を図る作者の対処法に共感できる。小さな風評でも放置しないことが肝要である。

- 買ひだめの本を枕に睦月過ぐ 棚田町 川鍋 幽覚
病棟の夕餉は早し日脚伸び 渡柳 大西 道子
誰が袖の香る袂や踊り初め 忍 大澤 由子
相槌を打つ人もなく春の暮 下忍 荒井 王子
冬銀河山谷越えて米寿かな 持田 小倉 繁三
主亡き犬小屋飾る落椿 小見 川島 盾子
共に老ゆ友の賀状に文字の揺れ 持田 中野 華泉
(三沢一水 選評)